

死んでも生きる

「ラザロは墓の中にいてすでに四日もたっていた…わたしは復活であり、命である。わたしの中へと信じる者は、たとえ死んでも生きる…主よ、もう臭くありません…あなたが信じるなら神の栄光を見る…ラザロよ、出て来なさい！すると、死んでいた者は出て来た」(ヨハネによる福音書 第11章17、25、39、40、43-44節)



なぜ人は神に触れ、神を感じる事ができないのでしょうか。また、罪に対して何も感じないのでしょうか。それは人の最も深い部分の霊が「死んでいる」からです。死は魂や体にまでも広がり、人の存在のあらゆる部分で働いています。人は日々死につつあり、最後に肉体においても死にます。これは最初の人アダムの墮落を通して罪が全人類の中に入り、罪を通して死が入ってきたためです。今日人々は神について語りますが、神に触れ、神と交わる「機能」を失っています。最も汚れた言葉を口にしても何の「感覚」もありません。神を喜ばせることに関しては「弱く、無力」です。また「もろくて」、簡単に気分を害してしまいます。興奮して面白そうに話しますが、「死臭」が鼻につきまます。ある人は自らの欲情の中に、ある人は酒やギャンブルの中に、ある人はゲームやインターネットの中に葬られています。人はさまざまな「墓」の中に埋められて、それから抜けられないでいます。

ですから、人には「助け」や「いやし」は役に立ちません。欠点や行いを「改める」ことはなおさら無駄です。死んでいる人に必要なのは「命」であり、「復活」です。真の命を受け入れて、復活させられることです。神の命だけがこのような復活の命です。神の命は死を飲み尽くし、取り除いて、霊の機能と感覚を回復し、弱さと無力、もろさからも救い出し、あらゆる墓から出て来させ、どんな束縛からも解放することができます。

そのため、神は「肉体」と成って、地上に来られました。この方が主イエス・キリストです。彼は十字架上でわたしたちの罪を取り除き、さらに死を征服し、復活して「命を与える霊」と成られました。わたしたちが主イエスの言葉を聞いて彼を信じ受け入れるなら、わたしたちの生涯は復活の過程となります。彼はわたしたちの霊の中に入って神の命を分与し、霊を生かし、復活させます。神の命は魂の中にも広がり、魂は日々復活させられ、造り変えられていきます。将来、死ぬべき体も神の命で満たされ、浸透され、わたしたちの全存在は復活の中にもたらされます。このとき、わたしたちの中の死は完全に飲み尽くされて消え失せ、全存在は神の命とさえなり、神は光として輝き出ます。このようにして、「神の栄光」がわたしたちを通して現されます。これが神の救いの最高峰です。「それはあなたがたの内にいますキリストであり、栄光の望みです」(コロサイ人への手紙第1章27節)